

日韓におけるフェイクニュースとファクトチェック

ーメディアに対する評価と拡散要因を中心にー

○ 徐 映京 SEO, Youngkyoung

Keywords : フェイクニュース、ファクトチェック、日韓国際比較、メディアに対する評価、拡散要因

1 目的

本研究の目的は、うわさ研究で研究されてきた拡散要因を、日本と韓国で実際に拡散したフェイクニュースを対象に検討することである。また、従来型メディアで見られたうわさやデマのような擬似情報の拡散要因を含め、フェイクニュースにおけるファクトチェックの意義を検討する。

2 方法

本研究では、日本と韓国におけるフェイクニュースに対してそれぞれの国の利用者を対象にアンケート調査を行った。日韓で共通して拡散したフェイクニュース及び各国独自のフェイクニュースを対象にして調査を実施し、実際に拡散したフェイクニュースに対する回答を得た。また、メディアや学術機関が提供するファクトチェックサイトの利用経験を尋ねた。本調査は 2019 年 12 月に日本と韓国においてウェブベースで行われた（日本と韓国それぞれ n=2060）。

3 結果

集計及び分析の結果、日本と韓国のメディア利用者のファクトチェックは異なる様相を見せていることが分かった。また、うわさ研究で取り上げられた拡散要因（心理的要因・重要性の認識・曖昧さ）に関しても一定の知見を得ることができた。

4 結論

以上により、本研究で、情報の真偽を確認するファクトチェックがフェイクニュースにおいて重要な鍵となることが示唆された。日本と韓国においてファクトチェックに対して異なる様相が見られている中、各国のメディアに対する評価や本研究で検討した拡散要因がどのようにフェイクニュースの拡散に寄与しているかは今後更なる検討が必要である。うわさ研究で確認された諸要因は、フェイクニュースにおいても有効な要因であろう。

【主要参考文献】

Allport, G. W., & Postman, L. (1947) *The psychology of rumor*. Oxford, England: Henry Holt, 1947 南博訳 デマの心理学 岩波書店, 1952.

Fukunaga Hidehiko (2018) 'Rumors, Hoaxes, Fake News, and Media's Counter-News' *The NHK Monthly Report on Broadcast Research*, 68(11), 84-103.